

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2016年4月★第117号

始めよう！炎のある暮らし～薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ～

日 時：1月16日（土）10：00～15：00
場 所：仙台市青葉区勾当台公園 グリーンハウス前
来場者：約600名

仙台の中心・勾当台公園で、実際に焚いたストーブの暖かさと楽しさを体験し、交流できるイベントを初めて開催しました。多くの来場者が訪れ、「薪ストーブが最新になっていてすごかった」「知らないことが多く、わかりやすく説明をしていただき興味がわいた」「ストーブをつけたいと思った」と好評で、ストーブに触れる貴重な機会になりました。

このイベントは環境省「地域活動支援・連携促進事業」の一環として開催しました。

出展協力団体 株式会社 BESS高勝、株式会社アオイ技研ペレットステーション仙台、株式会社ウェスタ、エネシフみやぎ、特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会、クレア工業株式会社住宅事業部、株式会社くりこまくんえん、株式会社建築工房零、株式会社さいかい産業、株式会社サカモト、株式会社サスティナライフ森の家、特定非営利活動法人しんりん、株式会社ディーエルディー、有限会社デクソン仙台、豊臣工業株式会社、特定非営利活動法人日本の森バイオマスネットワーク、特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹



焚いたストーブに興味津々。
暖かさを実感！

あったかいスープ



ペレットのプール



子どもでもできる薪割り体験



公園を訪れた方で賑わいました



薪ストーブで
焼きマッシュマロ



ペレットピザ窯で
焼きたてピザを試食

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体が作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 始めよう！炎のある暮らし
～薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ～
- P2 ストップ温暖化センターみやぎ通信①
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信②
／東北6県でESD環境教育プログラムを作成しました！
- P4 MELONcafe プチ講座
／かんきょう見聞記ーミツパチと家族ー
- P5 協同組合からのお知らせ
／目指せ100人！環境リレートーク 村岡次郎さん
- P6 仙臺農塾1、2月開催報告
／日本の食の安全は、世界に逆行している？
ネオニコチノイド系農薬の実態
- P7 引き継ぐ「水への想い」
～地域文化の継承を考える交流会～
／堆肥を作って生ごみ削減！
／「仙台89ERS エコDAY」開催
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.72

「京都」から「パリ」へ～COP21（パリ会議）報告会in仙台～

日 時：2月13日（土）13：30～16：30
 会 場：TKPガーデンシティ仙台
 参 加 者：50名
 講 演：伊与田昌慶さん
 （認定NPO法人気候ネットワーク研究員）
 長谷川公一さん（MELON理事長）
 話題提供：藤田遼さん
 （東北大学大学院理学研究科、Climate Youth Japan）
 協 力：Climate Action Network Japan（CAN-Japan）

2015年11月30日～12月13日にかけてフランス・パリで開催されたCOP21。近年の中でも特に注目を集めていたこの会議で、京都議定書以来18年ぶりとなる新たな枠組み「パリ協定」が採択されました。発展途上国を含むすべての国が参加して温暖化対策に取り組む初めての枠組みとなり、温暖化問題は歴史的な転換点を迎えました。

今回の報告会では、パリ会議に参加した3名を招き、COP21会議の様子や結果の報告を行うとともに、未来へ向けて私たちに出来ることは何かを考えました。

長年COPに参加している伊与田さんは、パリ協定のポイントとして「産業革命以降の地球の平均気温を1.5～2℃未満に抑えることをめざす」を挙げ、化石燃料に頼らない低炭素から脱炭素への転換と、各国・各地域で

のさらなる温暖化防止活動行動の展開が必要とのこと。

長谷川理事長からは、COP開会の前日に世界全体で68.3万人が行動に参加、2000以上のイベントが開催されたことなど市民活動の大きな盛り上がりで紹介されました。また、南アフリカ共和国の代表によるスピーチ、ネルソン・マンデラの自伝の言葉を引用した「気候変動への長い闘いに終わりはない」という印象的なメッセージも。

現役学生としてCOPに参加した藤田さんからは、世界中の若者が気候変動をテーマに集う国際イベントCOY11（Conference of Youth）の紹介や、国際交渉や国内政策における日本政府の姿勢を向上させることを目的とした声明文を各省庁に提出した若者による活発な活動が報告されました。

パリ協定はゴールではなく、新たなスタートです。私たち一人ひとりの取り組みにも終わりはありません。



パネルディスカッションでは熱心な質疑応答も交わされました

スモリ工業、低炭素な家造りでオーディエンス賞を受賞！～低炭素杯2016～

2月16日（火）17日（水）、日経ホール（東京都千代田区）にて「低炭素杯2016」が開催されました。6年目を迎えた今回は、全国から1993団体がエントリー（地域大会も含む）。その中からファイナリストに選ばれた38団体が地球温暖化防止の多様な取り組みを発表し、日本一を競いました。

宮城県からは「スモリ工業株式会社」がファイナリストに選ばれ、「消費者が建築に参加できる低炭素な家造り」と題した取り組みを発表。審査の結果、見事オーディエンス賞を受賞しました！全戸全量に国産材を利用した「山からの一貫体制による家造り」や、解体再建築に対応した4R住宅、高性能省エネ・低コストで低炭素に優れた家造りを継続している点が高く評価されました。支店は置かず宮城を拠点に、東北地方の気候や風土

にあった低炭素な家造りを長年続けてこられたことも特筆すべき点です。低炭素杯の後日、スモリ工業を訪問し実際の建物を見学・体感しながら取り組みを伺って

きました。その様子はストップ温暖化センターみやぎのブログで紹介しています。ぜひご覧ください。



表彰後に笑顔で記念撮影

弱点を逆転してみよう！～平成27年度のうちエコ診断実施結果～

平成27年度のうちエコ診断の結果から全国と宮城県の4人世帯あたりの年間光熱費を比較してみると、宮城県の方が年間4万5千円、月で換算すると約4千円高くなっています。燃料別で見るとガソリン代が約8万円、灯油代は約2万円と全国よりも高くなっていることがわかります。

また、家庭からのCO₂排出量を比べてみると、宮城県での排出分野1～3位は自家用車、暖房、給湯となっています。

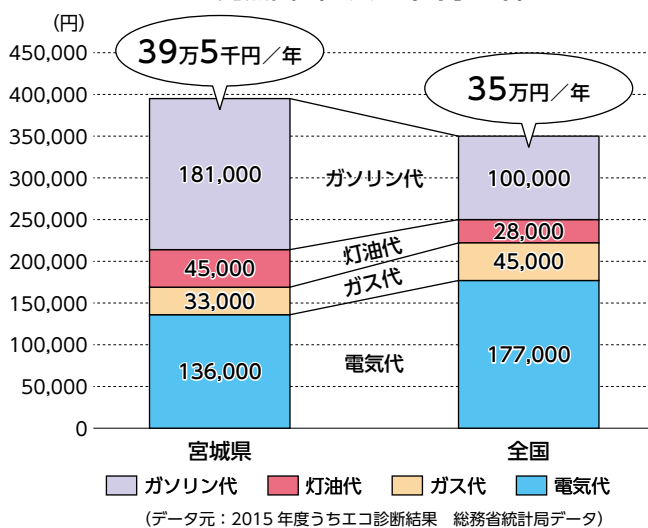
「宮城県は全国と比べれば車がないと不便だし、寒いから費用が掛かってしまう」のは当たり前。でも、そこであきらめたらいけません！費用が掛かっているからこそ、省

エネ（節約）方法がたくさんあるのではないのでしょうか？

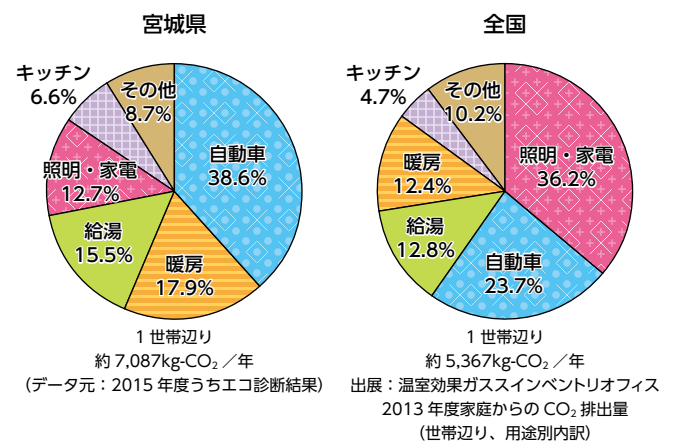
例えばガソリン代なら「エコドライブ」や「近場へは徒歩または自転車を使用」、灯油代なら「昼間は厚着をして暖房をつけない」や「出かける30分前に暖房のスイッチを切る」などなど、簡単にできることから始めてみませんか？

うちエコ診断の結果や省エネのポイントなどについて詳しく知りたい、という方はストップ温暖化センターみやぎのWEBサイトにて公開しています。また、エコドライブについてのパンフレットも作成しました。ぜひ、参考にしてみてください。

光熱費（4人世帯 円／年）



家庭からのCO₂排出割合（用途別内訳）



東北6県でESD環境教育プログラムを作成しました！

「東北地区ESD環境教育プログラム成果発表会
ESDってなあに？知ろう！学ぼう！行動しよう！」
日 時：2月6日（土）13：30～16：50
会 場：仙台市情報・産業プラザ セミナールーム2
来場者：69名

東北各県で地域と密着して環境学習を行っているNPOと連携し、学校等でプログラムの実証を行い、地域の実情に合わせた環境教育プログラムを完成させました。



大盛況の成果発表会

成果発表会では、各県のNPOが作成したプログラム内容と実証結果を発表。地域の水資源に着目した青森のプログラムや、地域のジオパークについて学ぶ秋田のプログ

ラムなど興味深いものが多く、来場者からは「とても興味深くもっと長く発表を聞きたかった」といった感想も寄せられました。

2月25日（木）には事業の成果物として「平成27年度東北地区ESD環境教育プログラム集」を発行しました。これは東北6県分のプログラムの詳細や作成団体の連絡先等を掲載し、環境教育関係者が現場で活用できるように意識して作成したものです。非売品で部数に限りはありますが、ご希望の方には事務局に取りに来ていただくか着払いの郵送にて差し上げますので、MELON事務局までご連絡ください。

※このイベントは環境省「ESD環境教育プログラム実証等事業に係るESD環境教育プログラムの作成・展開業務」の一環として開催しました。





MELONcafe

- 12月19日(土) 13:30～15:30
「古着をリメイク♪羽子板作り」
- 3月12日(土) 13:30～14:30
「米粉で簡単♪桜もち&イチゴ大福作り」



持ち手は帯の着物地、布地は
全てご寄付いただきました

「オシャレですぐにできるエコ」を体験し、参加者同士が楽しく交流できる MELONcafe プチ講座。12月には着なくなった着物をリメイクして、正月飾りの羽子板を作りました。羽子板部分はパネルの端切れや使用済みの厚紙で作成、飾りのリボンも花束に巻いてあったもの。ごみとして捨てるものを、かわいくきれいにリメイクできました。椿の花の部分はゆっくり自宅で仕上げたいという方が多く、羽子板部分とお花のパーツを作った後、参加者同士の交流を楽しみました。

春の和菓子と言えば、桜もち。主に関東圏では、小麦粉等で餡をクレープ状に包んだものを桜もちといい、関西圏では、道明寺粉を蒸して餡を丸く包んだものを指すそうです。道明寺粉とは、水に浸し蒸したもち米を干して粗めにひいたもので、つぶつぶの見た目ともちもちとした触感が特徴です。



簡単レシピなので
楽しく手軽に作れます☆

3月の講座では、道明寺粉を使用した桜もちとイチゴ大福を作りました。大福の生地は、もち米から作られた白玉粉を使用。参加者は、桜の葉の香りとイチゴの甘くさわやかな香りを楽しんでいました。日本の食卓に洋食が多くなり、食糧自給率の低下が心配される中、「お米」が見直されてきました。小麦粉の代わりにお菓子やパン作りなど幅広く使える米粉。今後も地道に米粉の良さを広める活動をしていきます。

今後の MELONcafe プチ講座

4月23日(土) 13:30～14:30
「空きビンのリメイク♪ガラスエッチング体験」



ミツバチと家族

映画篇⑤

「夏をゆく人々」
石垣政裕 (MELON 理事)

ルネサンス期の画家ラファエロの絵画にラファエロ・ブルーと呼ばれる青が使われています。私たちはこの青色にすいこまれるように彼の絵に見入ってしまいます。絵の中で、青のすぐ近くにある黒がこの青色の深さを際立たせています。

イタリア中部トスカーナを舞台にした、イタリア・スイス・ドイツ合作映画「夏をゆく人々」(アリーチェ・ロールヴァケル監督)で、昔ながらの方法で養蜂を営む家族が無邪気に遊ぶ海の青さは、まさに輝くばかりの「青」なのです。

その一家が自信を持って作っていた蜂蜜製造所も、食品製造の衛生基準を満たさなければ続けていけないことになってしまいました。また、テレビの番組収録がこの地にやってきて、子どもたちは美しい俳優に惹かれ、新しい世界へとあこがれていきます。

イタリアは2010年の統計で、農薬の使用量が日本の1/2。トスカーナ地方は有機農法・スローフード*もとでも盛んです。この「夏をゆく人々」の中で、飼って

いたミツバチが大量に死に、農薬を使った隣の農家に怒鳴り込んでいくシーンがあります。「かんきょう読み聞かせ No.71『ミツバチのおつかい』」でも触れたミツバチの大量死は、1990年代から殺虫剤として使われてきたネオニコチノイド系農薬に係るといわれています。



さて、ジェルソミーナの一家も参加したテレビ番組のコンテストで優勝したのは、皮肉にも農薬を使った隣の農家でした。父親のヴォルフガングにどんな主義主張があろうと、イタリア中部のくらしが変わっていくという流れが、思春期の長女ジェルソミーナの揺れ動く心を通って描かれています。

冒頭に述べた輝くほどのブルーの海など豊かな自然の色と、父親が更生のため預かった少年が逃げ込んで行く森の漆黒のような暗闇が、自然と人間の営みの対比を暗示させるように見事なコントラストを描いています。その中で「時代」と「家族」が深いところで「環境」と結びついている映画だと感じています。2016年1月23日 仙台フォーラムで観ました。

*1986年にイタリアのカロ・ペトリーニによって提唱された国際的な社会運動。ファストフードに対して唱えられた考え方で、その土地の伝統的な食文化や食材を見直す運動、または、その食品自体を指す。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

6月は「環境月間」！お店で地域でエコな取り組みが行なわれます

みやぎ生協では、環境月間である6月に店舗やエリアで環境保全活動の取り組みを展開し、環境に配慮した生活を実践するメンバーを広げています。

今年度も環境配慮商品のお知らせを重点テーマに、リサイクルやエコな料理の紹介などを行います。昨年は、牛乳パックをリサイクルし、芯がないのでごみでないトイレットペーパー「コアノンロール」の紹介などを行ないました。

～六丁の目店では～

「小さなエコを探そう」をテーマに、リサイクルに関する掲示をしながら、「トイレットペーパー選手権」を行いました。普段どのくらいトイレットペーパーを使っているのか巻き取って付箋に長さとし、イニシャルを記入し、ホワイトボードに貼って平均使用（1.5m）と比較しました。参加した方にはコアノンロール1巻をプレゼント。



トイレットペーパー選手権開催中！

こんな、メンバーさんのアイデア満載の取り組みも行なわれます。お近くのお店にお越しの際は是非お立ち寄り下さい。



目指せ100人！ 環境リレートーク



第60人目の執筆者
村岡 次郎さん
（有機農家）

村田町で有機農業をしています。まずなぜ農業をしているかというと、単純に美味しいものを食べたい、人間らしく生きたいという理由です。そしてなぜ有機なのかというと、ただ自然が好きという理由です。

今の畑の環境は、杉林と竹林に囲まれ、畑の前には小川があり、その小川には数は少ないですが虫を見ることができます。良い自然環境の中で農業ができることを嬉しく思っています。ただ、昔はもっと虫がいたと近所の方から聞いています。

虫がいるだけで羨ましく思われますが、昔は至る所にいたと聞いています。しかし、今は限られた場所でしか見ることができません。子ども達の中には、

虫を見たことがない子も大勢いると思います。

自分の役目は、農業をすることで自然を壊すのではなく、この自然と共生すること。できるならば、この自然を良くしていくこと。次の世代にも、虫を見ることができる環境を残すことが自分の役目であると今では思っています。

ただ自分が言う自然というのは、木が勝手に生えたのではなく、誰かが昔に木を植え、それが大きくなったモノが大半です。要は、人間の手が入っており、人間がそれなりに面倒を見ないといけないモノだとも考えています。良い自然環境を残せる農業をやっていききたいと思います。

<連絡先>

WEBサイト：<http://farmmuraoka.strikingly.com/>

メール：farm.muraoka@gmail.com

… 次号執筆者紹介 …

諸岡浩子さん

（エネシフみやぎ・地球の未来と私たち研究所）



仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

第5回「だし旨味 意外と知らない基本のき」

日 時：1月27日（水）・2月3日（水）19：00～21：00

会 場：土井親方のこだわり料理「縁」

（青葉区大町2丁目13-9幸田ビル1階）

ゲスト：佐藤陽子さん（ライター・だしソムリエ）

参加者：両日とも16名

第6回「雪下にんじんを味わう～有機野菜でつながる農業～」

日 時：2月24日（水）19：00～21：00

会 場：仙台地物屋 炉だん

（青葉区国分町2丁目10-33）

ゲスト：渡辺重貴さん（仙台秋保 くまっこ農園）

参加者：32名



かつお（人形）の頭をもぎとる
佐藤陽子さん

最近だしを取ってお料理を
しましたか？第5回は和食の
基本、だしについて勉強しまし
た。素材であるかつお節は
ほぼ手作業で作られ、1か月
～半年ほどかけてみなさんの
食卓に並びます。かつおを切

り分けるところから始まり、煮たり乾燥させたりカビを
つけたり…。昆布も同様に、種苗生産から種付けして養
殖、養殖中も日光に当てるために高さを変えるなど、大
変な作業が続きます。だしを取るのは一瞬ですが、だし
素材が作られるまでには長い時間と手間がかけられてい
ます。佐藤さんに教わっただしの取り方は、仙臺農塾
Facebook ページをご覧ください！

渡辺重貴さんは、国際 NGO
に参加しインドネシアで有機農
業を経験、その時に食べた採れ
たての生のトウモロコシの美味
しさに衝撃を受け、一度は会社
勤めをするも、周囲の反対を押
し切り秋保で有機農業を開始。
「食べたものは明日の自分の細
胞になる」「自分が食べたいもの、家族に食べさせたい
ものをお客さんに届けている」「農家は食べてくれる人
の顔が浮かんだら下手なものは作れない」「だからつな
がりが大事」。人前で話すのは苦手とのことですが、誠
実な姿勢と一つひとつの言葉が、参加者全員の心にしっ
かりと届いていました。



料理の野菜は渡辺重貴さんの
野菜のみ！

日本の食の安全は、世界に逆行している？ネオニコチノイド系農薬の実態

ネオニコシンポジウム

「家庭にも潜む 話題の新農薬ってなあに？

～知らずに食べていませんか？～

日 時：2月11日（木・祝）13：30～16：00

会 場：エル・パーク仙台6階スタジオホール

講 師：水野玲子さん

（「知らずに食べていませんか？ネオニコチノイド」著者）

ゲスト：門傳仁さん（栗原市有機稲作農家）

千葉ゆかさん（生活協同組合あいコープみやぎ）

参加者：81名

EU やアメリカ、韓国や中国でも使用規制の動きがあ
るにも関わらず、日本では食品中の残留農薬基準を緩和
している殺虫農薬があります。「ネオニコチノイド系農
薬（およびフィプロニル）」。たばこの有効成分ニコチン
に似た殺虫剤で、農業では稲のカメムシ防除や果樹の防
虫として散布したり、森では松枯れ防除剤、家庭用では
殺虫剤、シロアリ駆除剤、
ペットのノミ駆除剤などに
用いられています。昆虫の
神経を麻痺させる農薬で分
解されにくく効果が残るた
め、生態系や人への影響も
懸念されています。



多くの生産者・消費者が参加！



水野玲子さん

そして、少量でも効果が得られる
ため、むしろ減農薬栽培にできる
という矛盾があります。高齢化が進む
農家にとっては省力化になり、減農
薬になり、大助かりなわけです。

しかし、「本当にネオニコは効果
があるのか？」生産者の門傳仁さん
からの投げかけもありました。カメムシがつくと黒いお
米が出てしまうため、その予防
として使用しますが、それは白
くてきれいなお米を消費者が求
めるから。味に影響はなく、色
彩選別機にかければ取り除くこ
ともできます。

消費者として、ネオニコ不使
用の食材を選ぶこともできま
す。あいコープみやぎでは2013年からりんごのネオニ
コ不使用に取り組んでいます。

生物多様性や安全な食を守るため、生産者も消費者も
行政も理解し合い、それぞれの立場から行動が必要な時
ではないでしょうか。

協力：生活協同組合あいコープみやぎ、NPO 法人環境保全米ネットワーク、
NPO 法人河北潟湖沼研究所（石川県）、ミツバチまもり隊（滋賀県）
※このイベントは一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストの2015年度助成
を受けて開催しました。



（左）門傳仁さん
（右）千葉ゆかさん

引き継ぐ「水への想い」～地域文化の継承を考える交流会～

日時：12月12日（土）13：30～16：00
 会場：フォレスト仙台5階501会議室
 コーディネーター：山田一裕さん
 （東北工業大学工学部環境エネルギー学科教授）
 シンポジスト：
 石川 寿さん（仙台市泉区 福岡大堰、北向堰管理組合）
 後藤一磨さん（南三陸町文化財保護委員他）
 篠原富雄さん（MELON水部会員）

3.11の東日本大震災で、沿岸地域の文化は大きな打撃を受けました。住民がその地域に住めなくなったり減ったことで、地域の人々のつながりであった「お祭り」の開催を見合わせることもあります。地域のお祭りは、「神さま」を通して「自然」とつながり、感謝や畏怖の

思いの現れでもありました。

しかし、地域の文化の継承は沿岸地域だけの問題ではありません。地区で管理し守ってきた神さまやお祭りが、若い人たちに伝わらず、廃れてしまっているところもあります。

そうした地域での継承に
 取り組む方々の交流会を開催し、継承への取り組みや思い、悩み、これからどのように伝えていくかを互いに考えていきました。明確な答えは出ませんでしたが、課題が明確になり、今後の各々の活動の一助になったのではないのでしょうか。



シンポジストの
石川寿さんと後藤一磨さん

堆肥を作って生ごみ削減！

暖くなる春は発酵が進むようになるため、生ごみ堆肥化を始める良いタイミングです。一概に生ごみ堆肥といっても、いろんな手法があります。生ごみがどの程度出るのか、堆肥として使用したいのか、置き場所があるかどうかで適した方法は変わってきます。そして、その堆肥容器に愛着を持てるかも大事なポイント。子どもと同じように、必要な時に手をかけて、手をかけすぎずに気楽に始めることも大切です。



段ボール式



コンポスター式

- マンション暮らしで1～3人暮らし
→段ボール式生ごみ堆肥
- プランターで花を育てるのが好き
→プランター式生ごみ堆肥
- 家族が多い、庭や畑がある
→コンポスター式生ごみ堆肥
- 室内でひっそりとやりたい
→手動攪拌式生ごみ堆肥



手動攪拌式

初夏にはさまざまなタイプの堆肥作りを紹介する交流会を開催予定。気になる方はぜひチェックしてください！

「仙台89ERS エコDAY」開催

日 程：2月6日（土）、7日（日）
 会 場：青葉体育館
 参加者：2日間281名

プロバスケットbjリーグ・仙台89ERSのホームゲームにおいて、試合会場を環境教育の場とし、来場者に環境保全の知識を深めてもらうことを目的として「エコDAY」が2日間続けて開催され、MELONは講師として参加しました。

内容は盛りだくさん！古着をリメイクしたパスケース作りや、使用済みのプラスチックコップを再利用した「LEDライトガラガラ応援グッズ」作り。ストップ温暖化センターみやぎのエコドライブシミュレーター体験。そしてみやぎ里山応援団の角田尚一さんが講師となっ



親子で楽しく、森の木の実の
フォトフレーム作り♪

て、木の実のフォトフレーム作り・マイ箸作り講座も行いました。いつも会場にあるエコステーションでは、球団のボランティアさんが来場者にミニエコクイズを出題して、体験した人にエコステッカーを配布していました。子ども

から大人まで多くの来場者に、環境をテーマとしたさまざまな講座に参加してもらい、環境知識を深めてもらうことができました。

参加者からは「マイ箸を使ったり、公共交通機関を利用して試合に来るようにしたい」といった感想も聞かれ、有意義な時間となりました。

6/18企業交流部会 「環境に取り組む企業・団体・学生の 活動発表会&交流会(仮)」開催!

宮城県内で環境に取り組んでいる企業・団体・学生が来場者と環境情報について意見を交換するイベントを開催します。ぜひご来場いただき、最新の仙台の環境の取り組み事例をご覧ください。



日 時：6月18日(土) 14:00～17:00
会 場：仙台市シルバーセンター第1研修室
参加費：無料・事前申し込み不要・出入り自由

電力自由化が始まります!

2016年4月1日から電力の小売り全面自由化がスタートしました。内容については以下URLの資源エネルギー庁のWEBをご参照ください。
http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electric/electricity_liberalization/



これで私たちが電力会社を選択できるようになります。情報が少なく、宮城県ではまだ選択肢も少ないようです。何も手続きをしなくても今までどおり電気を使用することはできますので、勧誘にまどわされず、じっくり情報を待って、再生可能エネルギーを使用した電力会社を選びたいものです。いずれにしてもなるべく多くの情報を確認し良く考えて選びましょう!

編 集 後 記

■桜の季節から初夏にかけて昼が長くなっていく時期は、毎年心が躍りどこかに出かけたくくなります。今年はどこに行こう? これからの季節が楽しみです。(小林)

■ベランダの日よけ対策用に「白バラの大苗」を購入しました♪「四季咲き」なので春から秋まで長くお花を楽しめそうです。(菅田)

■報告書作りに追われた年度末が終わり、ほっと一息ついたのも束の間。新年度の事業が早くも始動。今年度も、色んな場所でお会いできるのを楽しみにしています。(岸)

■事務所へと出勤する道すがら、街路樹に目をやると枝先に萌黄色。休日は、春を探しに出かけてみようかな。(菅原)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/15(金)	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
4/23(土)	MELONcafe プチ講座「空きビンをリメイク♪ ガラスエッチング体験」開催 「新緑祭」にブース出展
4/27(水)	仙臺農塾 Vol.4 第8回「優しさと美味しさの関係 ～新しい就労支援の現場から～」開催
4/29(金・祝)	「春の森で遊ぼう! in 川崎町貸森林」開催
5/7(土)	水部会 例会
5/12(木)	情報センター 例会
5/16(月)	食部会 例会
5/17(火)	MELONcafe 例会
5/25(水)	仙臺農塾 Vol.4 第9回「地域支援型農業(CSA)の可能性 『農民ジョンの心の土』上映会」開催
5/26(木)	「ごみのゆくえを見てみよう!」開催
6/4(土)	MELONcafe プチ講座 「リメイクキャンドル作り」開催
6/12(日)	広瀬川水質調査実施
6/18(土)	「環境に取り組む企業・団体・学生の 活動発表&交流会(仮)」開催
6/19(日)	仙臺農塾 Vol.4 第10回大人の遠足・鳴子編 「鳴子の休日～地大豆湯治と漆器づくりに学 ぶ食と器～」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

679名

法人 68

任意団体 12

個人 599

2016年2月29日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかれます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <http://www.melon.or.jp/melon/>

落丁・乱丁の場合は、MELON事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。